

情報通信審議会情報通信技術分科会
研究開発・標準化戦略委員会
標準化戦略ワーキンググループ（第4回）議事概要

1 日 時 平成19年12月4日（火） 9時30分～12時30分

2 場 所 総務省低層棟1階 総務省第一会議室

3 出席者（敬称略）

構成員

相澤清晴（主任）、浅見徹、古賀正章、加藤隆、川西素春、森脇鉄朗（日比慶一 代理）、宮島義昭、江崎正、花輪誠、小森秀夫、北地西峰、岡進、勝部泰弘、森下浩行、佐藤孝平、喜安拓、藤咲友宏、山下孚、中西廉、星克明、

事務局

田中宏（通信規格課長）、荻原直彦（同課標準化推進官）、増子喬紀（同課標準推進係長）、山崎浩史（同課標準推進係）、田沼知行（技術政策課課長補佐：研究開発戦略WG事務局）

4 議事

（1）標準化戦略ワーキンググループ（第3回）議事概要の確認

資料 標-4-1 標準化戦略ワーキンググループ（第3回）の議事概要の確認が行われ、特段コメント等なく承認された。

（2）ICT分野における国際標準化戦略の在り方について

事務局より、資料 標-4-2に基づき、前回WGからの修正点を中心に説明があった。本骨子案については、今後文章化の作業を進める予定であり、追加・修正等あれば、12月7日（金）までに事務局まで連絡することとなった。

（3）各作業班からの報告

資料 標-4-3～11に基づき、各作業グループから検討状況の説明があった。主な質疑については以下のとおり。

【「ICTパテントマップの整備」の検討状況】（資料 標-4-3）

- ・パテントマップの利用についての3つのシナリオをご説明いただいたが、民間企業や総務省はそれぞれどのようにパテントマップを活用するのか。
→各活用方法については、P. 33の活用方法に記述してあるとおりである。（1）は、プロジェクト等を実施する際の予算の裏づけとして活用。（2）はSCOPEに応募する人にとって、総務省から求められる技術がどのようなものかわかるようなマップ。（3）は総務省側で、標準に関する研究開発を実施するときに、メンバーを集めたりするときの参考となるマップというイメージである。
- ・今後は外国の技術もこのパテントマップにマッピングされていくということによいか。また、マップの利用の仕方として、日本の強みのある分野の標準化を進めるために参考とする場合や、逆に日本の弱い部分で相手にやられないため、標準化を進めるために参考とする場合が考えられるが、その点につき今回作成マップからはどのように読み取ることができるのか。見極め方について教えて頂きたい。
→海外技術のマッピングは重要だと考えており、P.10（留意事項）に「海外での特許出願状況に関しても調査の対象とすべきである。米国、欧州、中国など。」と記述した。また、特許が多いからいいのか、それとも少ないから悪いのかなど、知財戦略の判断

基準については、マップからどう結論付けるかまでは今回記述していないし、そこまでやらなくてもいいのではと考えている。例えば、特許庁のデータも、それを見た側が独自に判断して戦略を立てるのだと思う。

- ・基本特許とそうではない特許など、いろいろあると思うが、それら色分けされたマップは出来るのか。
→標準化されていない場合、技術方式の基本的な考え方が特許化されれば、それが基本特許となるのではないかと考えている。一方、標準化が済んだ特許は、技術的な基本特許ではないが、必須特許になるのではないかと思う。
- ・パテントマップの管理組織としてセンターが考えられるが、センターでパテントマップ等の管理も実施していくことを考えると、標準化のエキスパートだけでなく、知財に関するエキスパートのメンバーも是非加えていただきたい。
- ・P.4はどんな技術に、いくつの特許が出願されているのか判断する材料になると思うが、P.5及びP.6は知財や標準化の戦略でどう活用するのか。
→P.5は出願件数の伸びを見ることによって、今後技術分野が重要となってくるのがわかる。P.6はトータルな件数だけでなく、技術的な中身の進展がわかる。この技術的な流れを見ることによって、今後どう技術開発しなければいけないのかがわかる。
- ・マップは何通りできるのか。
→要求に沿ったマップができると思う。ただ、マップを作成するには調査が必要であるので、その調査のレベルと要求項目によって、いろいろな種類のマップができると思う。
→管理については、利用したデータを蓄積していったって、うまく増やしていく仕組みが必要である。3つの利用シナリオはとりあえずいいと思う。
- ・今回は電池の例が出ているが、ICTがらみで、例えばIPTVについてマップを作り、今回の報告書の中に入れることはできるか。また、その際、調査等の予算の要望等があればご意見頂きたい。
→過去に調査したものであれば、内容に入れていきたいと思う。新規だと対象となる技術によっても範囲が異なり、予算も変わると思う。実施するなら範囲を絞って調査するか、既存のデータを収集することになると思う

【「ICT知的財産強化戦略の策定」の検討状況】（資料 標-4-4）

- ・パテントプールの設立に関しては、センターが主導していくべきものか。どこがリードしていくべきか。
→パテントプールについては、ビジネスとして運営する会社が出て来ており、今後も、こうした動きは続くと思う。統合プールについても一部動きがあるので、参加企業を動かせば、統合の方向で動いていくのではないかと思う。ただ、標準化をする段階では、パテントをリーズナブルにライセンスすることを促進することが必要。
- ・今回の報告において、新しい提案はなにか。
→P.4の対策案に記載があるが、パテントプールの統合プールやグローバルなパテントプールの必須鑑定については、新しいところだと思う。また、CJKのアジアとの取組みに関連して、欧米よりもC J Kは特許的にはまだ弱いところがあるので、対抗軸として標準化と絡めて連携していければと思っている。
→目玉が冒頭で見えるような形で記述頂きたい。

【「アジア・太平洋地域における連携強化」の検討状況】（資料 標-4-5）

- ・キーワードとして、APEC TELが抜けているような気がする。APEC TELでは、機器の

相互認証を行っており、仲間作りにはいい場であると思う。テレコムに関するWGが年3回程度開催されており、その場をもっと強化頂ければと思う。今そのWGは活動しているか。

→確認が必要だが、現在標準化に関する活動は行っていないと思う。

→東アジアやペルー、南米、オーストラリア、カナダ、アメリカ等が参加している。あの場に標準化のWG等があると面白いと思う。

【「企業の標準化活動への支援」の検討状況】（資料 標-4-6）

・標準化活動の支援は、基本としてデジュールを対象としているが、IEEEやIETFなど、個人で参加するようなものについてはどうするのか。

→P.3 4.(ア)で民間フォーラムも支援の対象として記述した。ただ、支援のバランスとして、デジュール標準の方が公的な支援が必要で、デファクト標準は企業の負担が考えられる。その辺のバランスを考える必要はあると思う。

・タイトルが企業となっており、大学や個人は本件の対象としていないような印象を受けるがどうか。

→大学は今後重要となる。

→タイトルはICT国際競争力懇談会の提示からそのまま使ったもの。議論のなかで個人、大学も必要とのことであれば、是非提案いただきたい。

→デジュール標準では、参加したくても参加できないような企業が多い。そのような人たちが参加できるような仕組みが必要。一方、フォーラム標準等では、中小企業等を主な対象とした支援が必要になると思う。

→本件については、作業グループで議論させていただく。

・フローチャートの点線の意味はなにか。標準をやっていない企業だけを対象にしているような感じがする。

→このフローチャートは、作業グループでお互いのイメージを共有するために作成したもの。点線については、各企業によって標準活動のレベルが違うということを意図して描いた。

→フローチャートの描き方について、ご検討頂く。

【「標準化団体の活動強化・相互連携等」の検討状況】（資料 標-4-7）

・最終的なまとめとしては、どういう活動の連携を考えているか。

→活動を円滑にするため、民間フォーラムとうまく連携することが必要。連携すべきフォーラムの選定が一つのまとめになると思う。連携すべき施策については特にCJKとの連携や、欧州に対する連携などについて最終的にまとめたい。また連携する内容が他の作業グループにもあるので、その部分は調整していきたい。

【「ICT国際標準化推進ガイドラインの策定」の検討状況】（資料 標-4-8）

・WiMAXフォーラムは地域ごとのプロフィールを決めるような活動は行っていないので、記述の修正が必要。

・前回、FeliCaの事例について記載してはどうかとの提案があったが、それについてはどう扱うか。

→FeliCaは確かに海外に市場を作ったという点では参考になるが、実際には後付けで国際標準化が行われたという経緯がある。今回は国際標準化を前提に考えるという位置づけから誤解を招きかねないために取り上げていない。

→FeliCaは社内的にも国際標準化の苦い経験として認識しており、これを契機に国際標準化の重要性を認識した。FeliCaは、NFCとして国際標準化を行っており、視点を変えた標準化でうまくいった事例とも言え、そういう意味で取り上げてもらっても良い。

- ・政府と企業の連携方法の事例として米国政府がANSI規格をITUに強くプッシュするなどの事例が触れられているが、具体事例として挙げることは可能か。
- サムソンと韓国との連携事例については、一部調査されているものもあるようなので、シンクタンクに調査させれば洗い出せると思う。米国の動きもファクトとしては出していけそう。しかし、それを踏まえて、どうすべきかというところまでは踏み込まず、あくまで参考事例として紹介する。

【「ICT標準化エキスパートの選定」の検討状況】（資料 標-4-9）

- ・前回WGで、エキスパートには企業提案を通す人を育成するのか、役職者となる人を育成するのかという発言があったが、それについてはいかがか。
- その点については、特に議論はしなかった。個人的な考えでは、両立すると思う。国際会議の中で指導していれば、線引きは曖昧になるので、どちらかに絞る必要はないのではないかと思う。但し、ここでは育成を中心に検討しており、特定の企業の利益になる活動はやらないと考えている。国が推進すると定めた技術テーマの範囲内で、活動するのだと思う。
- ・「標準化エキスパート」の言葉については、意味が分かるように定義する記述を前段等に入れて頂きたい。
 - ・内容について、支援という部分で、企業支援の作業グループ等と重なる部分があるので、その部分については調整が必要である。
 - ・大学の先生の場合、選定方法のフローチャートではどのパターンに入るのか。
- 自社内に置席のパターンとなると考えている。

【「ICT国際標準化戦略マップの整備」の検討状況】（資料 標-4-10）

- ・「標準化の優先すべき技術分野の選定について」の資料について、もっと見やすくなると思うが。
- 本資料については、研究開発WGの資料で、標準化において重要となる技術を赤で強調したもの。そのため、この資料がそのままマップになるわけではないと理解している。

【「ICT標準化・知財センターの設置」の検討状況】（資料 標-4-11）

- ・今回センターには、人材育成や企業支援、パテント等を扱う機能が期待される。もう少し細かく検討いただければと思う。
- 全ての作業グループとうまく連携が取れているわけではない。今日の議論を含め検討して、内容に加えていきたいと思う。
- ・センターの組織のあり方、どこまで具体的に記述すればよいか。
- 答申の案を出すときには、本WGでオーソライズする形で、担当する機関等まで記述いただけるのが理想。
- 受益者負担の原則や予算の額など、どこまで報告書に記述できるかは難しい問題である。ただ、検討する上では重要なことであるので、記述頂ければと思う。
- ・国のプロジェクト等で開発したソフトウェアについてはどう考えているのか。今のところ国の研究開発で、中間アウトプットとして出てきたソフトウェアは、企業が資産として持ちたくないの基本的には償却されている。日本のソフトウェアが海外に出て行かない理由は、そこにあるのではないかと思う。
- センターの作業グループでは意見として出ていなかった。相応しいところで議論して頂きたい。
- リファレンスコードにも繋がる場所があると思う。

→リファレンスコードに関しては、資料 標-4-4の「(2)ICT標準化開発プロジェクトの活用」に記述させていただいた。ソフトウェアも知財として大切であるので、少し検討させていただきたい。例えば、国の研究開発で開発したソフトウェアを、オープンソースとするようなことも考えられる。ただ、制度的なものまではここでは扱えないと思う。

【全体】

- ・国際標準化戦略を策定するにあたって今後取組みを強化すべき技術項目について、アンケートをとり、「ICT国際標準化戦略マップの整備」の作業グループで集約して頂ければと思う。また明日、研究開発WGにおいても技術項目について議論する予定であるので、必要であれば、そちらも踏まえてアンケートを実施させていただく。

(4) その他

事務局より、参考資料1に基づき、今後のスケジュールの説明があった。また、次回ワーキンググループの日程等については、12月20日の開催を予定している旨事務局より連絡があった。

[配付資料]

- 資料 標-4-1 標準化戦略ワーキンググループ(第3回)議事概要(事務局)
- 資料 標-4-2 ICT分野における国際標準化戦略の在り方(骨子案)(事務局)
- 資料 標-4-3 「ICTパテントマップの整備」の検討状況(花輪構成員)
- 資料 標-4-4 「ICT知的財産強化戦略の策定」の検討状況(小森構成員)
- 資料 標-4-5 「アジア・太平洋地域における連携強化」の検討状況(喜安構成員)
- 資料 標-4-6 「企業の標準化活動への支援」の検討状況(原崎構成員)
- 資料 標-4-7 「標準化団体の活動強化・相互連携等」の検討状況(佐藤構成員)
- 資料 標-4-8 「ICT国際標準化推進ガイドラインの策定」の検討状況(北地構成員)
- 資料 標-4-9 「ICT標準化エキスパートの選定」の検討状況(山下構成員)
- 資料 標-4-10 「ICT国際標準化戦略マップの整備」の検討状況(加藤構成員)
- 資料 標-4-11 「ICT標準化・知財センターの設置」の検討状況(喜安構成員)
- 資料 標-4-12 今後のスケジュール(案)(事務局)

参考資料1 ICT標準化・知的財産強化プログラムの全体イメージ

参考資料2 標準化戦略ワーキンググループ構成員名簿

以上